



釧路湿原森林ふれあい推進センターでは、令和4年度北海道森林管理局インターシップ（夏期）について、学生の受入れを2回実施しましたので、その様子を紹介します。

インターシップについて

この取り組みは、学生が実際の業務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として実施しています。

第1回インターシップ

今回は、全5日間の日程のうち7月27日・28日の2日間、道内の大学生1名を受け入れました。

両日とも、気持ちの良い青空が広がる絶好の現場日和となり、当センターの活動内容や標茶町雷別国有林における自然再生の取組みについて、現地を含めての

紹介、ネイチャーゲーム等を通じての自然体験学習、また、野生生物自動撮影カメラの回収及び画像確認等を体験していただきました。このほか根釧西部森林管理署が北海道森林管理局や署の概要・取組の紹介と、林道や生産・保育箇所等の現地案内及び説明等を行いました。



自動撮影カメラ回収体験の様子

第2回インターシップ

8月31日～9月2日の3日間、兵庫県の大学生1名を受け入れました。

初日は、あいにくの雨模様となったことから、センター内で当センターの活動内容や標茶町雷別国有林における自然再生の取組みにつ

いて説明後、標茶町虹別国有林で防風保安林・間伐・主伐実行箇所等を見学しました。

2日目は、天候が回復したことから、初日に予定していた植栽木調査を午前中に、午後からは、カラマツを主体とした一大造林地であるパイロットフォレストを見学しました。

3日目は、当センターで長年お付き合いさせていただいている標茶町立中茶安別小中学校の「夏の学校林活動」に同行し、ネイチャーゲーム等を通じての自然体験学習と野生生物自動撮影カメラの設置及び画像確認等を体験していただきました。



樹高調査体験の様子

まとめにかえて

参加したインターン生からは、「森林ふれあいや森林環境教育に興味がありいろんな体験が出来ました」「自然観察や生物に関することに興味がある中、いろんな実務や経験が出来、今後に活かしていきたいのではないかと思います」等の感想をいただき、両名とも充実した表情を見せていました。

当センターにとっても、学生の皆さんの将来を考える機会に携わらせていただけることを大変ありがたく感じます。

今後も、希望いただければ、実施していきたいと考えております。



森林環境教育の現場を見学